

筑豊無形記憶遺産

校歌探訪

〈廃校編〉

山下 末廣

「筑豊ゼミ/市民遺産研究会」

目次

| | |
|--|----|
| 廃校の背景 | 1 |
| 校歌考 | |
| (1)菰田中学校(旧飯塚市鶴三緒1434) 飯塚第三中学校(旧飯塚市鯨田2075) | 2 |
| (2)赤坂小学校(旧庄内町) 仁保小学校(旧庄内町) | 3 |
| (3)内住小学校(旧筑穂町) 大分中学校(旧筑穂町) | 4 |
| (4)上穂波中学校(旧筑穂町) 内野中学校(旧筑穂町) | 5 |
| (5)山田南中学校(旧山田市) 山田北中学校(旧山田市) | 6 |
| (6)大橋小学校(旧山田市) 岩崎小学校(旧稲築町) | 7 |
| (7)平小学校(旧稲築町) 鴨生小学校(旧稲築町) | 8 |
| (8)大隈小学校(旧嘉穂町) 足白小学校(旧嘉穂町) | 9 |
| (9)千手小学校(旧嘉穂町) 泉河内小学校(旧嘉穂町) | 10 |
| (10)宮野小学校(旧嘉穂町) 千手中学校(旧嘉穂町) | 11 |
| (11)大隈中学校(旧嘉穂町) 宮野中学校(旧嘉穂町) | 12 |
| 作詞家・作曲家一覧 校歌の中の山と川 | 13 |

廃校の背景

明治以降、飯塚市とその周辺は筑豊炭田と呼ばれ、日本最大の炭田地帯であった。八幡製鉄所を背景に抱えていたこともあり、第二次世界大戦後も長く日本一の石炭産出量を誇っていたが、石炭産業の衰退とともにすべての炭坑が閉山してからは人口が激減し、最盛期と比較してその数が半分以上となった自治体も現れた。

(人口減少と廃校数) * 廃校の対象期間 (S22年～H26年3月)

| 市・町 | 人口(人) | 最盛期の頃 | 人口(人) | 合併直前の頃 | 廃校数(22) |
|-----|---------|-------------|---------|-------------|-----------|
| 飯塚市 | 107,467 | (1955年) 昭30 | 約80,000 | (2006) 平18 | 中(2) |
| 山田市 | 39,563 | (1959年) 34 | 11,034 | (2006) | 小(1) 中(2) |
| 庄内町 | 22,190 | (1958年) 33 | 10,649 | (2006) | 小(2) |
| 筑穂町 | 17,684 | (1960年) 35 | 10,815 | (2005) 国勢調査 | 小(1) 中(3) |
| 稲築町 | 46,382 | (1958年) 34 | 19,128 | (2006) | 小(3) |
| 嘉穂町 | 17,256 | (1960年) 35 | 9,692 | (2006) | 小(5) 中(3) |

(参考) 穂波町 43,085人(1957年・昭32) → 25,529人(2006年) 廃校0

廃校にはいくつかの理由がある。

- ①「昭和の大合併」による統合施策、
- ②過疎地域における就学人口の減少、
- ③ドーナツ化現象による都市部での就学人口の減少などがあるが、

筑豊地域にはこれらの理由とは別に炭坑閉山による人口流失という、産炭地ならではの特殊な事情もあった。

山田市や稲築町は、炭坑閉山による人口減が即ち就学児童の減少となった顕著な例だ。また、上記の②が理由と思われる嘉穂町は、基幹産業が農業で炭坑の数も少なかったが、町全体が山地であり、山間部に多くの学校が点在していたことも、廃校が多い背景として見えてくる。特別な例として、穂波町では最盛期と比べ、約17,500名(41%)の人口減にも関わらず、対象期間中の廃校が一枚もないのは稀な例で、とても興味深い。

かつて、「嘉飯山」と呼ばれたこの地域には多くの学校があった。時代の推移に抗しきれず、廃校となった幾つかの学校への感謝と鎮魂をこめて、さらには、確かな記憶としてその歴史を語り継ぐことが、同じ時代を生きてきた私達の責務のような気がする。

廃校になった学校(小学校12・中学校10)

飯塚市(8校)

- ・飯塚地区 (菰田中学校) (飯塚三中) ・庄内地区 (赤坂小学校) (仁保小学校)
- ・筑穂地区 (内住小学校) (大分中学校) (上穂波中学校) (内野中学校)

嘉麻市(14校)

- ・山田地区 (山田南中学校) (山田北中学校) (大橋小学校)
- ・稲築地区 (岩崎小学校) (平小学校) (鴨生小学校)
- ・嘉穂地区 (大隈小学校) (足白小学校) (千手小学校) (泉河内小学校) (宮野小学校)
- (大隈中学校) (千手中学校) (宮野中学校)

※ (廃校) 学校の統廃合や閉校などの理由でその経営をやめること。

〈校歌考1〉

菰田中学校

作詞 鳥井 衛 作曲 早柏 与

- 1 遥かに仰ぐ英彦の
遠き歴史を胸に秘め
燃ゆる理想のつとあいあい
ああ学舎に自治を呼ぶ
我らの誇り光あれ
- 2 緑に映ゆる丘の上
希望はもゆる若人の
伸びる力の歩みあり
ああこの窓に友情を
我らの誓い光あれ
- 3 流れも永久に嘉麻川の
薫る文化の陽をうけて
啓く真理の生命あり
ああこの庭に向上を
我らの菰田光あれ

飯塚第三中学校

作詞 栗原 一登 作曲 大中 寅二

- 1 遠賀の流れ窓辺に近く
季節の恵みこの地に受けて
楽しく遊ぶ我ら三中
のぞみ豊かに励まん共に
飯塚は期待す 我らの明日を
- 2 福智の峰のわきたつ雲に
夢も明るく日毎を生きて
たゆまず学ぶ我ら三中
まこと一途にたたなん共に
飯塚は期待す 我らのちから
- 3 地底の栄え歴史にしるのび
働く町の未来を誇り
正しく学ぶ我ら三中
勇気新たに進まん共に
飯塚は期待す 我らの時を

学校沿革

〈菰田中学〉:昭和31年(1956)飯塚一中菰田分校として設置。翌32年分校廃止となり、学級数8・生徒数270職員25で菰田中学校として発足。平成26年(2014)3月飯塚第一中学校に統合。

〈飯塚三中〉:昭和29年(1954)鯉田字岸田に、学級数14・生徒数669・職員23で鯉田小学校として開校。平成26年3月飯塚第一中学校に統合。

菰田中の校歌には英彦山と嘉麻川、三中は福智山と遠賀川。(英彦山は菰田小の校歌にも登場している)山は何故だか近郊の竜王山ではなく、遠景にみる英彦と福智山。川は同じでも嘉麻川と遠賀川。炭坑を連想させる(地底の栄え)の歌詞がみえる。また、両校とも曲の最後が～我らの〇〇で締めてあるのも面白い。

作詞の栗原一登は飯塚小・菰田小・立岩小・嘉穂中など、多数作詞している児童劇作家。作曲の大中寅二は飯塚東小、早柏与は若菜小校歌も作曲しているが、その時は早柏與となっている。

〈校歌考2〉

赤坂小学校

作詞 吉田 信照 作曲 池田 勝重

1 歴史のゆかし庄内の しすみの森のいや清く
至誠の道を一筋に つくす我等は日本の
誇りに生きる健児なり
ああ 赤坂小学校

2 いざたたかな燦然と 輝く文化は勤労の
尊い汗に咲く花ぞ つくす我等は日本の
明日をばにのう健児なり
ああ 赤坂小学校

3 朝日に映ゆるこんじきの 雲間に仰ぐ関の山
じしゅどくおうの意気高く 学ぶ我等は日本の
希望に燃ゆる健児なり
ああ 赤坂小学校

仁保小学校

作詞 和田 弘 作曲 森脇 憲三

1 関の高嶺に 月冴えて
汐井の川の 水清く
帯なす平地 炭山に
平和の光 輝けり

2 古き歴史を 誇りつつ
そそりて立てる わが校舎
燃ゆる希望を 胸に秘め
学びの道を いそしまん

3 伸びゆく文化 庄内に
世紀はめぐりて 新しく
意気だかだ 高らかに
わが仁保校の 名をあげん

学校沿革

〈赤坂小学校〉: 明治7年(1874)嘉麻郡の綱分、赤坂、筒野、入水、山倉、高倉の六カ村連合で赤坂小学校設立。

庄内町誌によれば、昭和30～34年頃の児童数2255名とある。昭和45年(1970)仁保小学校と統合し庄内小学校と改称。

〈仁保小学校〉: 明治6年(1873)に小学校簡易科として設置された。明治22年(1889)簡易科が廃止され、正式に仁保小学校となる。町誌には、最盛期の昭和33年(1958)30学級、1497名との記載がある。昭和45年(1970)赤坂小学校と統合し庄内小学校と改称。

両校の校歌に共通しているのは関の山(359M)。汐井川は彦山川の支流の一つ。

- ・じしゅどくおう(自主独往)・・・他人に左右されず、自分の主義主張どおりに行動すること。
- ・帯なす平地炭山・・・かつて庄内町近郊にあった赤坂炭坑や綱分炭坑がモチーフと思われる。

* 池田勝重・・・赤坂小、岩崎小、鴨生小の他にも、「校歌探訪・小学校編」の熊ヶ畑小学校も手掛け、庄内、稲築、山田など、作曲した学校が近隣であることは、この地域に縁のあった人物か。

* 森脇憲三・・・校歌探訪(小・中・廃校編)を通して、最も多く登場した作曲家。

〈校歌考3〉

内住小学校

作詞 淵上 啓 作曲 吉竹 栄

- 1 小鳥は丘にないている
きれいな笥の水の音
やさしく咲いたしゃくなげに
楽しいながめ内住校
- 2 雨の降る日や雪の朝
仲よく遊びよく学ぶ
体も丈夫になっていく
みんな明るい内住校
- 3 強く正しく朗らかに
力を合わせ進みゆく
学びの道はいつまでも
光り輝く内住校

大分中学校

作詞 行武 雅之 作曲 森脇 憲三

- 1 三郡の 高嶺さやかに
空ひたす光 光仰ぎて
若き 若きものここに集えり
向学の まゆも明るく もろともに真理求めん
ああ 誇りあり大分中学校
- 2 内住の 瀬音瀬音高清らに
身と心 珠と珠としぶきて
若き 若き友ここに学べり
花かおる 自治も楽しく 知を深め徳を修めん
ああ 誓いあり大分中学校
- 3 美わしの 郷土郷土筑穂に
勤労の幸を 幸をたたえつ
若き 若き意志ここにきたえり
希望満つ 未来輝く 新日本ふるいおこさん
ああ 誉れあり大分中学校

学校沿革

〈内住小学校〉: 明治5年(1872)寺子屋設置。 明治35年(1902)内住尋常小学校と改称。

最盛期の 大正10年には3学級86名、職員4名。昭和30年(1958)内野、上穂波、大分の三村の合併で筑穂町立内住小学校と改称。平成5年(1993)大分小学校と統合。

〈大分中学校〉: 昭和22年(1947)の学制改革により村立大分中学校として発足。大分小の仮校舎で授業開始。

同51年(1976)町内の三中学校(大分・上穂波・内野)統合により閉校。筑穂中学校として開校。

同じ旧筑穂町にあった小学校と中学校。創立が明治と昭和、詩は口語体と文語体、小・中の違いもあり、内容も好対照だ。

殊に内住小校歌は童謡風で平易明快な歌詞だ。作曲の吉竹栄は高田小校歌も書いている。

・笥(かけい)・・・樋(とい) 雨水などを運ぶ雨どい。地上に仮設して水を流す筒状の樋は笥と呼ばれる。
笥はすなわち懸樋(かけひ)。

〈校歌考4〉

上穂波中学校

作詞 田生久 作曲 越尾隆

1 朝陽に映ゆる 三郡の山の
山の精気を身にうけて
わが上穂波中学に
起つやはらから たのもしく

2 茜に染めし 日の丸に
心も潔く 白糸の
滝の玉水 岩ばしり
絶えぬ流れに 学ぶなむ

3 長尾の駅路 千年経し
歴史いろどる はな紅葉
日々に新に うるわしく
文化の錦 織りなさむ

内野中学校

作詞 石井十三日 作曲 大庭利夫

1 大根地山の 雪消えて
山ふところは 春かすみ
匂うさくらの 精とりて
ここにたちたる わが母校

2 青葉かがよう 深緑
玉とりきく 岩清水
にごりを知らぬ この心
生氣あふるる わが母校

3 にしきあやなす 四方の山
仰げば高く 意気は澄み
若き生命の 血はもゆる
理想はるけし わが母校

4 六花散りく 嚴冬の
寒にかおるや 白梅の
気節とほこり 高くもち
意気天をつく わが母校

学校沿革

〈上穂波中学校〉:昭和22年(1947)上穂波村一ヵ村組合立上穂波中学として発足。

翌年上穂波中学校に改称。昭和38年(1963)全校生徒932名、20学級・職員30名とある。

〈内野中学校〉:昭和22年、上穂波村一ヵ村組合立上穂波中学校の分校として発足。

翌23年内野村立内野中学校と改称。昭和38年に全校生徒497名、12学級・職員20名とある。

両校校歌に恵まれた自然が描かれ、茜・白糸・錦・青葉・深緑・岩清水・白梅など、色彩感に溢れている。

- ・茜に染めし日の丸に・・・「茜染」は江戸時代からの技法。日本最初の日の丸は筑穂町の茜染で染められた。
- ・長尾の駅路・・・現在の JR 桂川駅。計画時は上穂波村長尾地区に開設の予定だったが、資金不足により現在の位置に九州鉄道長尾駅として開設され「長尾」の地名を駅に冠した。
- ・六花(りっか)・・・雪の異称。結晶が六角形であることから由来。他に(ろっか)(むつのはな)とも。
- ・気節(きせつ)・・・気概があって、節燥の固いこと。気骨。

* 越尾 隆は伊岐須小校歌も作曲している。

〈校歌考5〉

山田南中学校

作詞 作曲 不詳

- 1 久遠の緑 天を衝き
めぐる山なみ 古き里
ここ西陵の 学び舎に
黒き大地は 火と燃えて
若き健児 健児 若き健児一千の
われ等が山田 山田南中
- 2 歴史の流れ 山田川
小富士の峯を 仰ぎつつ
自主真理の道を 一筋に
若き生命 生命 若き生命一千の
われ等が山田 山田南中

山田北中学校

作詞 田生 久 作曲 森脇 憲三

- 1 むらさき映ゆる大法の山
仰ぐ暁 ころさやかに
澄みて広く 澄みて広く 美わしきもの
ここにはぐくむ北中 北中 山田北中
山田北の わがまなび舎
- 2 北斗に通う鉦山のとよみに
身をも枝をも きたえみがきて
強くなおく 強くなおく たのもしきもの
山田北の わがあげくれ
- 3 山田の川の 流れ豊かに
岸のいらかを 波に文織り
日日に進む 日日に進む 新たなるもの
ここに修め北中 北中 山田北中
山田北の わが友たち

学校沿革

〈山田南中学校〉:昭和17年(1942)山田町中央国民学校として建設着工。
翌18年(1943)上山田国民学校より分離、山田中央学校として開校。
昭和24年(1949)山田町立山田南中学校と改称。
昭和53年(1978)北中と統合して山田中学校として開校。

〈山田北中学校〉:昭和24年(1949)山田町立山田北中学校として開校。
昭和53年(1978)南中と統合して山田中学校として開校。

山田南中校歌の(黒き大地は火と燃えて)と(若き健児一千)、北中校歌の(北斗に通う鉦山)にかつての炭坑町の活気が窺える。また、(小富士)はボタ山を連想させる。

- ・とよみ…響む(とよ)む。鳴りひびく。とどろく。
- ・強くなおく…なおく(直く)は 公明正大で正しいこと。
- ・いらか…(蔓) ①家の上棟②屋根をふく棟瓦③切妻屋根の三角形の壁の部分。

* 田生 久…山田北中の他にも碓井中、大隈中、穂波東中などの作詞を手掛けている。。

〈校歌考6〉

大橋小学校

作詞 作曲 不詳

1 山田小富士に ポタ山に
朝の光を 仰ぎつつ
心さやかに すくすと
わが大橋の 学舎に
元気にのびる よい子のわれら

2 風もそよそよ 緑そう
ここさわらでの 丘たかく
まちのひびきに はげまされ
きたえてみかく 精だすわれら
元気にのびる よい子のわれら

3 川をはさんだ 鉾山のまち
日々にさかえる よろこびを
若い生命に うけつくと
わが大橋の 学舎に
仲よく育つ 楽しいわれら

岩崎小学校

作詞 吉田 信照 作曲 池田 勝重

1 仰げば 関の山晴れて
紅におう 朝ぼらけ
ここ岩崎の 丘うえに
学びいそむ 健児らが
若き希望の 火はもゆる

2 こずえを わたる風の声
流るる嘉麻の 水の音
おごとの胸にふまう時
すずし眼ざしは 輝きて
若き血潮は 高鳴りぬ

3 いざもろともに 幸多き
行く末築き まごころを
世に捧げん ひとすじに
努めはげみて きたえなん
若き生命の 身と心

学校沿革

〈大橋小学校〉:昭和 30 年(1955)上山田小学校より分離し独立開校。町誌には開校時、学級数 20
児童数 1,155 名とある。昭和 63 年(1988)上山田小学校への統合議決。
平成 2 年上山田小学校への統合。

〈岩崎小学校〉:明治 8 年(1875)岩崎下等小学校として設立。明治 15 年(1882)岩崎小学校と校名変更。
昭和 51 年(1976)岩崎小と平小学校の一部が統合して稲築西小学校となる。

大橋小の校歌には、小さな富士に例えたポタ山や川を挟んだ鉾山など、炭鉾町の風情が描かれている。

・さわらでの丘…榎(さわら) ヒノキ科の針葉樹。校歌考(中学校編)の山田中学校にも同歌詞あり。
(作詞者 松岡俊幸)

・おごとの胸にふまう時…おごと? 胸にふまう時→胸に踏まう時→心にしっかりと刻む時 か?

〈校歌考7〉

平小学校

作詞 尾島 清 作曲 幸崎 卓也

- 1 若草もゆる 稲築の
つつじが丘に 並ぶ屋根
木々の緑の 美しさ
我等が学ぶ 平小学校
- 2 おおちの花の おらさきの
咲いては匂 う学舎に
我等仲良く 手をにぎりの
鍛えて磨く 身と心
- 3 小川のほどり 通る道
あの丘の道 そよぐ風
庭の木の実も いろどりも
調べを合わせて 歌うとう

鴨生小学校

作詞 舟木 由岐 作曲 池田 勝重

- 1 歴史は薫る 草壁の
嘉麻の流れの たゆみなく
心をこめて 一すじに
誠の道を 究めんと
- 2 朝日に映えて 緑濃き
鴨生が丘の 朝風に
みんな明るく 手を取って
よい子の道を 修め行く
- 3 日に夜に進む 生産の
父母の偉業を 仰ぎ見て
体を鍛え 業を練り
希望の路を 拓き行く

学校沿革

〈平小学校〉:大正 13 年(1924)岩崎小学校より分立開校。昭和 50 年(1975)一部は稲築西小学校へ編入。
昭和 53 年鴨生小学校と統合して稲築東小学校開設。

〈鴨生小学校〉:昭和 14 年(1939)稲築第二尋常小学校として開校。昭和 53 年平小学校と統合して稲築東小学校
開設。町誌によれば、この年最後の卒業証書番号は第 9972 号とある。

両校の校歌からは、「つつじが丘」や「鴨生が丘」など、学校周辺が小高い丘地だったことが窺える。また、鴨生小校歌の 3 番 ♪日に夜に進む生産 父母の偉業を仰ぎ見て の歌詞からは、1 番方から 3 番方までの交替勤務で、昼夜を問わず働いていた当時の炭坑労働者の姿が見えてくる。

・おおちの花…大地の花か？ 意識的に(おおち)にしたのか、誤って(おおち)となったのか？

〈校歌考8〉

大隈小学校

作詞 大里作右衛門 作曲 山内 常光

- 1 高くそびえる 馬見山
流れも清き 嘉麻川の
ここに立ちたる 学び舎は
これぞ我等の 大隈校
- 2 春秋かけて ながめよき
大隈公園 愛宕山
歴史に名高き 益富の
城址も我等が 日々の友
- 3 一千有余の 我が友よ
ここに楽しく 学びつつ
若き腕に おちうちて
希望の道に 進めかし
- 4 我に心の カあり
などかならざる事やある
奮闘努力の 意気高く
よりよき我を あらわさん

足白小学校

作詞 徳田金重郎 縄田 圭介 作曲 大塚すみえ

- 1 南筑嘉穂の 地を抜きて
秀峰高き 馬見山
山下に立てる 学び舎は
これぞ我等が足白校
- 2 深山の大気に 育まれ
嘉麻の流れに 身を清め
愛の手綱を手に執りて
むつぶ同胞 一百余
- 3 至誠の心 胸にひめ
高き理想を 仰ぎつつ
奮闘努力 たゆみなく
希望の道に 進まなん

学校沿革

〈大隈小学校〉: 明治7年(1874)現在の大隈、中益、下益、大隈町を学区として創立。
昭和22年(1947)大隈小学校と改称。(久恒分校と牛隈分校を設置)
平成26年(2014)大隈・足白・千手・宮野・泉河内5校統合。嘉麻市立嘉穂小学校に改称。

〈足白小学校〉: 明治7年(1874)屏村アジサコに屏小学校創立。明治9年 錦屏小学校と改称。
昭和16年(1941)足白小学校と改称。昭和28年)創立100周年記念式典。

足白小学校の校歌には同胞一百余。町誌には最盛期(S28～331頃)の生徒数は6学級286名の記載もある。 ※奮闘
努力・・・小学校の校歌では珍しい奮闘努力が両校の歌詞に共通している。

・大隈公園 愛宕山・・・12ページの大隈中学校参照

* 大里作右衛門・・・大隈小の第3代校長。〈大里〉の姓からして、地元出身の人物と思われる。

* 山内常光・・・全日本合唱連盟初代九州支部長。旧姓小倉中学校の音楽教師の時、同校の校歌を作曲。

〈校歌考9〉

千手小学校

作詞 八十島 稔 作曲 小出 浩平

1 古処より明る 大空に
かがやく光り 照り映えて
すくすく伸びる 杉桧
ああその姿 わがすがた
心あるく 伸ばそうよ
千手 千手 千手小学校

2 みどりの風も さわやかに
深山の花もしずくして
水辺よき 千手川
ああはつらつと 我が胸の
希望豊かに 湧き出ずる
千手 千手 千手小学校

3 尽きせぬ真理 ともどもに
旌旗のもとに つちかわれ
次代をになう 健児われ
ああ香ぐわしき まなびやに
日毎たのしく 鐘が鳴る
千手 千手 千手小学校

泉河内小学校

作詞 八十島 稔 作曲 牛島 覚

1 長谷のしじまの 霧晴れて
希望輝く 朝ほらけ
山も草木も はつらつと
努め励めと 燃ゆるなる
いでや進まん 今日もまた
泉河内の 健児われ

2 はるかに古処の 峰秀で
神代ながらの 泉川
水に声あり 桜かけ
学びの道を 究めんと
努力のわざや あな楽し
泉河内の 健児われ

3 白坂ごえに 夕映える
あや雲いとも 清らけく
恵の一日 暮れんとす
師よ学舎よ わが里よ
まことの感謝 祈るなる
泉河内の 健児われ

学校沿革

〈千手小学校〉: 明治7年(1874)才田村に才田小学校を設立。翌8年旧秋月藩の倉庫を校舎に充て千手小学校創立。
(最盛期)昭和28年 12学級 463名。平成26年 5校の統合で嘉穂小学校に改称。

〈泉河内小学校〉: 明治8年(1875)内山田小学校設立。明治11年(1878)内山田小学校栗野派出所を開設。
(最盛期)昭和33年 6学級 193名。平成26年 5校の統合で嘉穂小学校へ。

- ・旌旗・(せいぎ) はた・のぼり→校歌考小学校編の頼田小学校(作詞宮永燥)に同じ歌詞がみえる。
- ・長谷のしじま・長谷山(嘉麻市平山)千手川と泉河内川の間にある標高311.2Mの山・・・長谷山の静寂。
- ・白坂ごえ・県道66号線の白坂峠(380M)。秋月から飯塚へ向かう秋月街道の難所で、秋月藩が飯塚を経由して黒崎へ向かう参勤交代の最短ルートだった。泉河内小学校は近くにあったのだろう。
- * 八十島 稔・・・明治39年旧嘉穂郡千手村生まれの詩人、俳人。 代表作 唱歌「朝だ元気で」
- * 小出浩平・・・明治30年新潟出身。日本教育音楽協会会長を歴任。代表作 唱歌「こいのぼり」

〈校歌考 10〉

宮野小学校

作詞 梅根 悟 作曲 黛 敏郎

1 筑紫路の 山の間あい
展けたる 美し この郷
天地の 恵豊に
人みな の 生命 美し
この生命 あい倚るところ
郷土の 幸を 拓かん

2 仰ぎ見る 馬見の山に
雲白く 美し この郷
たくましき 力を享けて
生たつや 若き友から
この力 あい倚るところ
同胞の 幸を 拓かん

3 嘉麻川の 源清く
水澤に 美し この郷
うるわしき 心を享けて
励みゆく 学びの道よ
この心 あい倚るところ
邦々の 幸を 拓かん

千手中学校

作詞 八十島 稔 作曲 高木 東六

1 あおげば高き 古処の嶺
草も緑も 霽して
聴け新しき あげぼのの
昇る朝陽に 映ゆるとき
鐘が鳴る鳴る 学舎に
われらが千手中学校

2 流れも清き 千手川
そのみなもとの 山峡に
若き希みは 湧き出でて
見よはつらつと 大いなる
心照る照る 健児われ
われらが千手中学校

3 民主の光 日本の
新憲法にしたがいて
われらは 次代を荷なうもの
師の豊かなる 智と技能
受けて文化の 華と咲く
われらが千手中学校

学校沿革

〈宮野小学校〉:明治7年(1874)桑野村に桑野小学校、上村に上小学校開設。同22年(1889)宮野尋常小学校創立。
昭和22年(1947)宮野小学校に改称。昭和58年(1983)創立100周年記念式典。
平成26年5校の統合で嘉穂小学校に改称。(最盛期児童数)昭和33年 6学級 385名。

〈千手中学校〉:昭和22年(1947)千手村立千手中学校として設立。昭和47年 嘉穂中学校の分教場。
昭和49年 三中学校を統合して嘉穂中学校。(最盛期児童数)昭和28年 12学級 463名。

- * 梅根 悟・明治39年旧嘉穂郡宮野村出身の教育学者。東京教育大学教授、和光大学初代学長を歴任。
- * 黛 敏郎・1929年(S4)～1997年(H9)横浜市出身。戦後のクラシック音楽、現代音楽を代表する作曲家。
- * 高木東六・1904年(M37)～2006年米子市。昭和期に活躍した作曲家。代表作「空の神兵」「水色のワルツ」

〈校歌考 11〉

大隈中学校

作詞 田生 久 作曲 岩田 達雄

1 馬見の山や 嘉麻川の
正気を受けし 美し子の
我が大隈の 学び舎に
むつみ励むぞ たのもしき

2 松の緑の 益富に
仰ぐ朝日の さわやかに
心つくして 世を啓く
学びの道を 究めなむ

3 よし夜嵐の すさぶとも
朝愛宕の 雪を愛で
霜に紅葉の 色染めて
文化の錦 おりなさむ

宮野中学校

作詞 光井 数雄 作曲 森脇 憲三

1 緑の山に 雲はれて
嘉麻の流れの わくところ
ああ美わしの 学び舎に
宮野の健児 今こぞる

2 れいめいの空 光りあり
求む 知識新しく
希望にみてる 故郷に
理想の花は 今ひらく

3 凍る朝や あつき日も
正しく強く 朗らかに
練磨の日夜 たゆみなく
われらが 母校栄あれ

学校沿革

〈大隈中学校〉:昭和 22 年(1947)大隈町・宮野村・足白村三ヵ町村立大隈中学校として設立。

最盛期頃の昭和 37 年(1962)に卒業生 278 名。昭和 47 年嘉穂中学校の分教場
昭和 49 年(1974)大隈中・宮野中・足白中の三中学校を統合して嘉穂中学校となる。

〈宮野中学校〉:昭和 22 年(1947)宮野村・足白村・大隈町・三ヵ町村立宮野中学校として設立。

最盛期頃の昭和 38 年(1963)に卒業生 78 名とある。昭和 47 年嘉穂中学校の分教場。
昭和 49 年(1974) 宮野中・大隈中・足白中の三中学校を統合して嘉穂中学校となる。

・益富・・・(益富城) 秀吉の九州征伐時の一夜城として有名。校歌探訪小学校編(嘉穂小)に詳細あり。

・愛宕・・・(愛宕山) 大隈交差点から国道 322 を山田方面。清正公園(大隈公園)の裏山一帯の俗称か。

(地図上に表記なし)

・れいめい・・・(黎明) 夜明け。明け方。あたらしい事柄が始まろうとすること。またその時。

* 岩田達雄・・・大隈中の他にも、小竹町立小竹中学校の校歌も作曲。

・作詞家・作曲家一覧

作詞家・・・八十島 稔(千手小・泉河内小・千手中) 田生 久(上穂波中・山田北中・大隈中)
吉田信照(赤坂小・宮野小) 鳥井 衛(菰田中) 栗原一登(飯塚山中)
和田 弘(仁保小) 淵上 啓(内住小) 行武雅之(大分中) 光井数雄(宮野中)
尾島 清(平小) 舟木由岐(鴨生小) 梅根 悟(宮野小) 石井十三日(内野中)
徳田金重郎／縄田圭介(足白小) 大里作右衛門(大隈小)

作曲家・・・森脇憲三(仁保小・大分中・山田北中・宮野中) 池田勝重(赤坂小・宮野小・鴨生小)
早柏 与(菰田中) 吉竹 栄(内住小) 越尾 隆(上穂波中) 大庭俊男(内野中)
幸崎卓也(平小) 山内常光(大隈小) 大塚すみえ(足白小) 小出浩平(千手小)
手島 覚(泉河内小) 黛 敏郎(宮野小) 高木東六(千手中) 岩田達雄(大隈中)
大中寅二(飯塚三中)

・校歌の中の山と川

校歌にはそれぞれの故郷を代表する山や川が多く登場する。当然のことだが、校区や地域によって変わってくる。例えば飯塚市の2校の場合、菰田中は英彦山と嘉麻川、三中は福智山と遠賀川。庄内町の2校に共通するのは関の山で、仁保小には汐井川が書かれている。稲築町(3校)の場合でも、2校に嘉麻川が歌われている。ただ、平小中学校には「緑の山」とあるが、特定の山も川も書かれてない、数少ない例である。

筑穂町(4校)では、大分中と上穂波中に三郡山、内野中には大根地山があり、川は大分中に「内住の瀬音」とあるのみで、内住小校歌にも山と川は書かれていない。

山田市(3校)では、山田南中に大法山があるが、北中と大橋小には「小富士」(地元のボタ山か)が登場し、川は2校に山田川が書かれている。

最も地域性が表れているのが嘉穂町。8校ある廃校中、山は馬見山(4)と古処山(3)で二分していて、泉河内小には長谷山。大隈小と大隈中には愛宕山が共通している。嘉麻川は5校に共通して、他に千手川2校 泉川1校となっている。千手川も泉川も嘉麻川の支流(脇役)に過ぎないが、地元ではこの(脇役)が主役なのである。

嘉穂町(現嘉麻市)には、2026年に「嘉穂アルプス」として、日本山岳遺産に登録された馬見山(978M)、古処山(860M)、屏山(927M)の三山があり、馬見と古処の二つの山は校歌の定番となっているが、屏山に限れば小学校編(嘉穂小)に、♪朝日に輝く馬見 屏 古処の山脈にと、それも3校一緒に1つあるだけだ。五七五調が主流の校歌では、馬見山(うまみやま)や古処の峰(こしょのみね)等と比較した場合、屏山(へいざん)では語呂が合いにくいのであろうか。

校歌を聞けば故郷が浮かぶ。故郷の山や川はそこに暮らす人達の誇りであり、地元愛・郷土愛の象徴なのだ。

〈参考資料〉

飯塚市史(昭和50年刊) 山田市史(昭和61年刊) 庄内町誌(平成10年刊)町制40周年記念誌
筑穂町誌(平成15年刊) 稲築町史(平成16年刊)町制60周年記念誌 嘉穂町誌(昭和58年刊)

〈資料協力〉

飯塚第一中学校 上山田小学校 嘉麻市教員委員会